

映像公開したタクシー強盗の犯人像

都内で連続発生

年末年始に都内でタクシートラffic強盗が連続発生した事件で、警視庁は24日、犯人とみられる男の防犯カメラ映像(写真)を公開した。

警視庁によれば、男は昨年12月15日から21、24、29日、1月2日の5日間で計6件の犯行に及んだ。新宿や渋谷からタクシーに乗り込み、渋谷区内の1件を除けば、世田谷区内の住宅・商店街付近の人通りがないところへ誘導。料金支払いの際にカッター・ナイフを突きつけ、拳で殴るなどして、売上金1万~3万円を強奪。被害額は計9万1000円以上。男は25~40歳ぐらいの長髪でニット帽子やマスクで変装していた。

神奈川県警の元刑事で「現場刑事の掟」の著者・小川泰平氏(50)は犯行時間に目をつけた。「犯行時間が午後9時から午前0時までの間で、タクシー強盗の犯行としては早い。普通は深

夜から朝方が多く、時間が遅ければ売上金も増え、人目にもつかない。いずれも降りた場所から最寄り駅まで徒歩圏内で、電車に乗り、繁華街などに戻っていった可能性もある。定職がなく、ネットカフェなどで暮らしているのではないか。犯行が途絶えたのではないか。犯行が途絶えたのは仕事が見つかったからかもしれない。計画性はなく、短絡的な犯行」と、

警視庁は犯人の車内写真を公開した。「警察官をすべき警視庁は犯人の車内写真を公開した。『警察官をすべき警視庁は犯人の車内写真を公開した。』

のタクシーに乗せるわけにもいかず、重点配備が難しい。6件も犯行が続いているので、犯行を抑止する狙いがある」(小川氏)

今年に入り、警視庁は情報公開に積極的だ。オウム真理教元幹部の平田信容疑者(46)は逮捕後の写真が公開され、台湾人殺害事件や広島刑務所脱走事件でもすぐさま犯人の公開捜査に踏み切った。「暴排条例も同様だが、警察だけでなく一般の人にも協力してもらえないかという姿勢が切った。『警察はいるらない、給料を返せ』となりかねないが、警察官27万人だけでなく、国民1億人の目あれば有益な情報が集まる」(小川氏)

今月は重大事件が相次ぎ、またない「強化月間」となっているようだ。

